

記 録 Record

第 11 回ものづくり大学教育研究推進連絡協議会議事録

- 1, 日時：平成 24 年 2 月 20 日
 - 2, 場所：経団連会館（ルビールーム）
 - 3, 出席者：21 社（団体）21 名
 - 4, 次第
 - (1) 会長挨拶
 - (2) 学長挨拶
 - (3) 大学活動状況報告
- ① インターンシップ活動状況報告 参事・学生課長 宮本伸子
 「ものづくり大学におけるインターンシップの教育成果と今後
 ～大学生の就業力育成支援事業の取り組みを踏まえて～」
 ・インターンシップの実施状況，評価並びにそれに伴う今後の課題と，就業力育成支援事業の中で，事前事後の教育強化を図っている等の報告を行った。
- ② 学生発表
- ②-1 製造学科 3 年 牧 海祐 「泰日工業大学短期留学インターンシップ報告」
 ・泰日工業大学での活動状況と活動を通じて学んだこと，MEATH（Mitsubishi Electric Automation (Thailand)）でのインターンシップ（工場実習）で学んだこと等を発表した。また，今後について，自分の未来像と就職活動の方向性を発表した。
- ②-2 建設学科 3 年 藤本 祐輝
 「インターンシップと現在の就職活動及び就職後の目標設定」
 ・インターンシップ先を決めるにあたっての考えや，実際の活動の様子について発表した。また，インターンシップで学んだことが授業や就職活動に活かしていること，就職後の目標等について発表した。
- ②-3 製造学科 4 年 山極 航 「インターンシップ及び課外活動の経験と就職後の目標」
 ・インターンシップで携わった作業内容や失敗から学んだこと，それを活かした就職についての発表があり，世界で活躍できる技術者を目標とする未来像を話した。
 併せて，東京デザイナーズウィークプロジェクト（課外活動）や卒業研究の取り組みと成果について発表した。
- ②-4 建設学科 4 年 梅津 さとみ
 「学長プロジェクト 2010 ル・コルビュジエ カップ・マルタの休憩小屋」実施図面制作」
 ・インターンシップを兼ねた学長プロジェクトにおける具体的な取り組みの様子と成果について発表した。
- ③ 意見交換
 飛内学部長の司会で下記意見，質疑応答等があった。
 ・実習を含め，授業で習っていることがインターンシップを通して精神的，実務的，社会的に良い経験となっている。発表した学生のような模範生にすべての学生がなるようにこれからも努力して欲しい。卒業生の組織づくりやネットワークづくりが大学の中長期的な戦力となる。
 ・同窓会名簿の作成等同窓会活動の強化に努力したい。また，卒業生を教職員として採用することも考えていきたい。また，オープンキャンパスで卒業生の活動状況の報告を行っ

ている。

- ・製造業は海外へ事業シフトしており、泰日工業大学との交換留学やインターンシップの経験の発表が印象に残った。今後、泰日工業大学との交換留学やインターンシップをどう広げていくのか、また、タイ以外の海外留学やインターンシップといった外国の学生等に触れる機会をどうつくっていく予定なのか。

- ・泰日工業大学との交換留学を続けていく予定である。タイ以外の国との機会は検討課題である。留学生の受け入れについては強化したいと考えている。

- ・施工管理を希望する学生や社員が少ない。自ら現場で汗を流して仕事に関わってくれるような人材を輩出して欲しい。今後は、ぜひインターンシップに協力していきたい。

- ・土木、外溝、造園においても様々な知識や技術が必要となる。いろいろな場所に行って、いろいろなことを勉強して欲しい。

- ・それぞれの立場で自分が責任を持って何を行っているかということ和社会にアピールしていかないと埋もれてしまうことになる。ぜひ、実習でも研究でも外にアピールする機会をつくって欲しい。

- ・今後も積極的に大学と密な関係を維持し、協力していきたい。

- ・特にキャリアプランノートはよくできており、事前に目標を立て、事後にどのようなことを学んだのかについてしっかり棚卸しすれば、ノートの仕組みとあいまってうまく回っていくと思う。

- ・入社後やめる若者が多い。その中には、現場に配属され、初めて叱られたことに驚いてやめてしまう者がいる。そのような意味でも入社前にインターンシップという形で現場を経験できるのは良い方法である。

(4) 諸報告

事務局長から平成 23 年度の入学者の状況、就職状況、インターンシップの実施状況及び受託研究等について、資料に基づき報告がされた。

下記意見、質疑応答があった。

- ・就職未内定者の 3 割について、学生自身の努力も必要であるが、特に指導教員の動きが重要となると考える。教員の推薦が学生にとって大きなバックアップになる。「ものづくり」という表現は大学名以外に使う機会があるのか。

- ・通常はものづくりと表記し、大学名でのみ「ものづくり」を使用している。

- ・社会情勢上就職が難しい状況である。きめ細かく学生一人ひとりに指導できるかが課題ではないか。インターンシップの活動や趣旨には賛同できるので、継続して更に向上させて欲しい。

- ・就職にインターンシップは有効である。工夫すれば、就職率は上がると思う。

- ・後進国において自力でものづくりを始めている。そこにものづくりを学んだ学生が必要になる。自社はモンゴルとの関わりがあるので、ぜひ、大学を紹介して交流の機会をつくれなかと考えている。

- ・小さな会社であるので、良い人材を確保するのは大変である。インターンシップを通して出会いの場を作りたいので、ぜひ学生に会社を PR して欲しい。

- ・優秀な人材が欲しいので、インターンシップは有効であり良いきっかけになると考える。

将来的には受入りたい。3年生の10月ぐらいから就職活動を行うと基礎能力をつける時間が削られるのではないか。ものづくり大学の実態はどうか。支障は無いのか。

・授業に出ずに就職活動に明け暮れるという実態はない。3年生は就職指導が主であり、授業の時間外に行っている。

・ものづくり大学では、インターンシップをしっかりと行っているため、就職活動の際に右往左往しなくなり、また、活動を絞って行うことができているので、授業に出てこないということがないのではないか。

・インターンシップ先を選ぶときから、将来を見据えて選択させているので、そのことが就職活動につながっている。協力企業あつてのインターンシップであるので、今後とも協力をお願いしたい。
